

中世河口港関連遺跡群

中世から近世初頭にかけて、伊倉は高瀬と共に海外貿易港として発展していきます。古くは「丹部津」といわれた港を中心に町並みが形成されました。一帯には、唐人墓やキリシタン墓などが点在し、国際色豊かな土地柄だったことを物語っています。また、これらの文化財は日本遺産の構成文化財となっています。



切支丹墓石碑(市指定重要文化財)



伊倉北八幡宮蔵
(市指定重要文化財)
博物館ころぴア寄託



“伊倉”の町並み

交易の拠点であった伊倉には、海外からの文物や人々が多く流入する唐人町がありました。また、大陸の華南地方の様式で建てられた唐人墓が2基もあります。



振倉謝公墳(整備後)



伊倉北八幡宮

伊倉南八幡宮



肥後四位官郭公墓

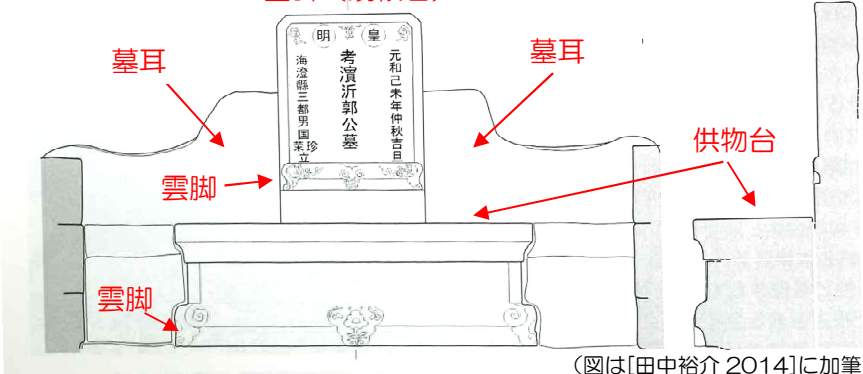
【市指定重要文化財】

肥後四位官郭公墓 —17世紀初頭の朱印船貿易家の墓



墓碑(拓本)

墓碑(鏡板石)



墓碑の前面に供物台を置いた前庭部があり、それを左右の側壁が囲むという華南様式のお墓です。埋葬施設は不明ですが、出土したとされる青磁碗が寛真寺に伝えられています。

(図は[田中裕介 2014]に加筆)



四位官郭公墓出土とされる青磁碗

近世初期に貿易などで活躍した肥後四官とみられる郭公の墓です。元和5年(1619)8月に子の国珍と国栄によって建立されました。墓碑に刻まれている海登縣は、現在の厦門(アモイ)の西側に隣接する福建省竜海市付近とみられます。江戸時代、その子孫が伊倉に住んでいたとされています。



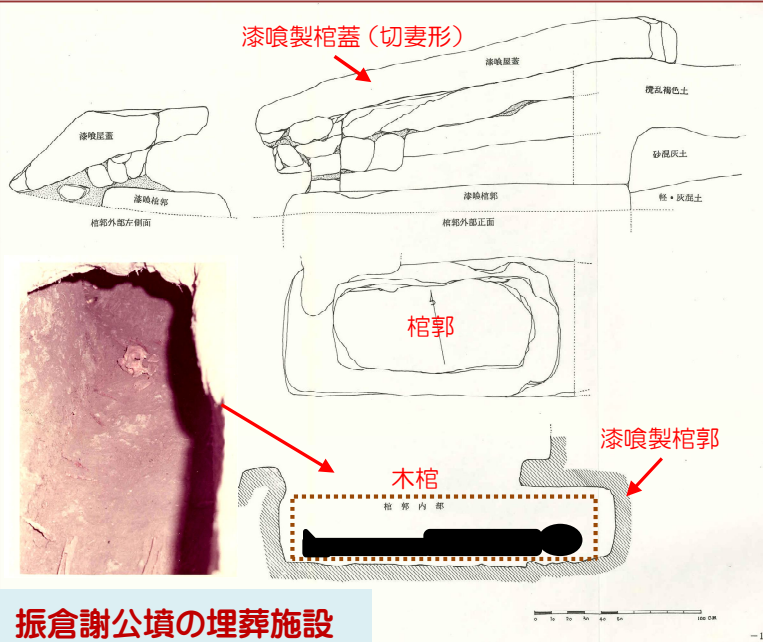
振倉謝公墳

【市指定重要文化財】

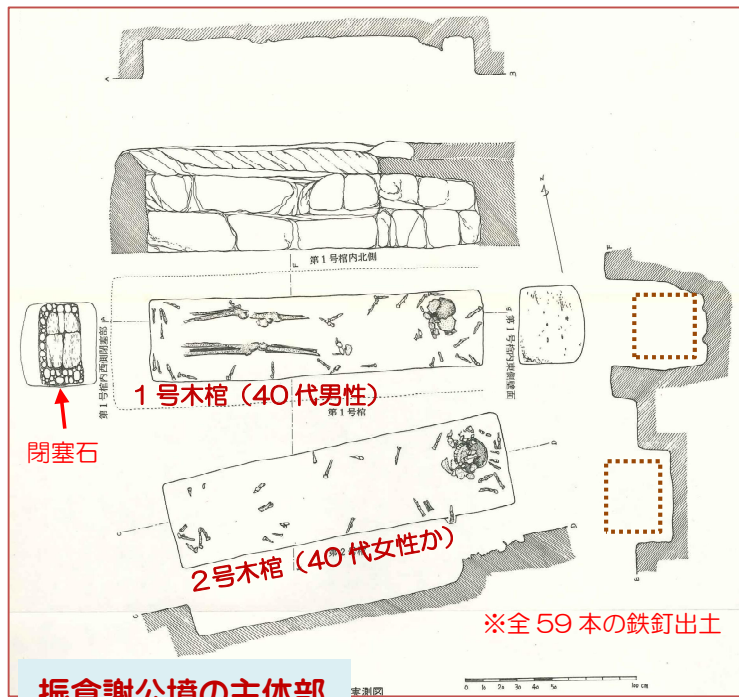
一発掘された夫婦の唐人墓

墓地公園整備に伴い発掘調査が行われ、漆喰で固められた埋葬施設と、木棺が出土しています。木棺からは、40代の男女とみられる人骨が検出され、夫婦の可能性が高いとされています。調査後、付近にあった「大明 振倉謝公墳」と記された墓碑とセットで、亀甲墓をイメージした張石墳墓風に整備されています。

漆喰製棺蓋（切妻形）

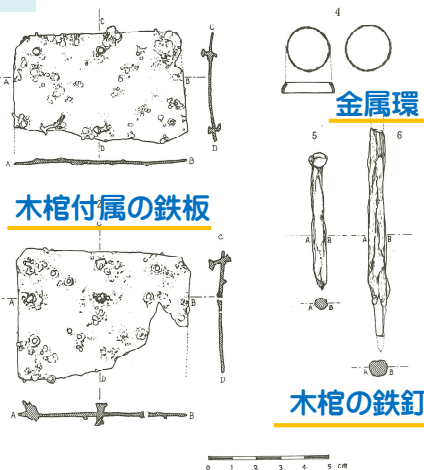


振倉謝公墳の埋葬施設



振倉謝公墳の主体部

この墓碑銘には年号がないため、建立された時期は不明ですが、漆喰郭や夫婦を埋葬する例は当時の中国墓地の特徴とされており、前者と同様に1620年前後の建立と考えられます。また、本来は側石など石材がもっとあった可能性があります。



振倉謝公墳の出土遺物



振倉謝公墳の発掘調査

昭和51年、墓地公園整備に伴い発掘調査されています。



長崎大医学部による人骨調査



人骨出土状況

もう一つの唐人墓



明人・林均吾墓

【市指定重要文化財】



玉名市天水町部田見に所在し、市内には伊倉の2基を含め3基の唐人墓があることになります。墓碑銘から、元和7年（1621）年に、子の新作が建立していることがわかります。四位官郭公墓の2年後に作られています。石積みや前庭部の構造は中国福建省南部の様式と類似しています。主体部の状況はわかっていません。